

川崎市市民ミュージアム

KAWASAKI CITY MUSEUM

所在地／神奈川県川崎市中原区等々力3049-1

建築主／川崎市

設計者／株式会社 計画連合

施工者／清水建設株式会社

東急建設株式会社

株式会社 大山組

竣工／1988年10月31日

Location／Kawasaki City, Kanagawa Prefecture

Owner／Kawasaki City

Architect／Keikaku-Rengo

Contractors／Shimizu Corporation

Tokyu Construction Co., Ltd.

Ohyama-Gumi Co., Ltd.

Completion Date／October, 1988



東側全景 General view. 右: 遊遍展示空間 right: Strolling exhibitions room.





エントランスホール Entrance hall.



3階・映像ライブラリー Reflection's library on the 3rd floor.



1階レストラン Restaurant on the 1st floor.



歴史・民俗展示室(2階) Display room of the history & folk(2nd floor).



1階・講堂 Auditorium on the 1st floor.

建築概要

敷地面積 134,861.00㎡
 建築面積 8,386.46㎡
 延床面積 19,542.83㎡
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造
 規模 地下1階・地上3階・塔屋1階
 工期 1986年3月～1988年3月

仕上げ概要

外部仕上げ
 屋根/デッキプレート下地/パーライトモルタル木ゴテ
 軽鉄下地、硬質木毛板⑦25mm、チタン鋼⑦0.4mm溶接工法 外壁/陶板タイルPC打込みパネル、一部現場貼り(B1, 1, 2階)、カラーアルミPL⑦3mmパネル(3階) 開口部/アルミサッシュ フッ素樹脂焼付、一部ステンレスサッシュ鏡面、HL、一部スチールサッシュ フッ素樹脂焼付 外構/透水性コンクリート、一部磁器質タイル、自然石

内部仕上げ

[逍遙展示空間] 床/モルタル金ゴテ、一部鉄骨キースト Ⅱモルタル金ゴテ下地ゴムタイル⑦6mm、一部大理石⑦25mm、一部ブナ集成材⑦45mm 壁/コンクリート下地陶板タイル、一部クロスEP 天井/グラスウール硬質内装用断熱吸音板⑦25mm

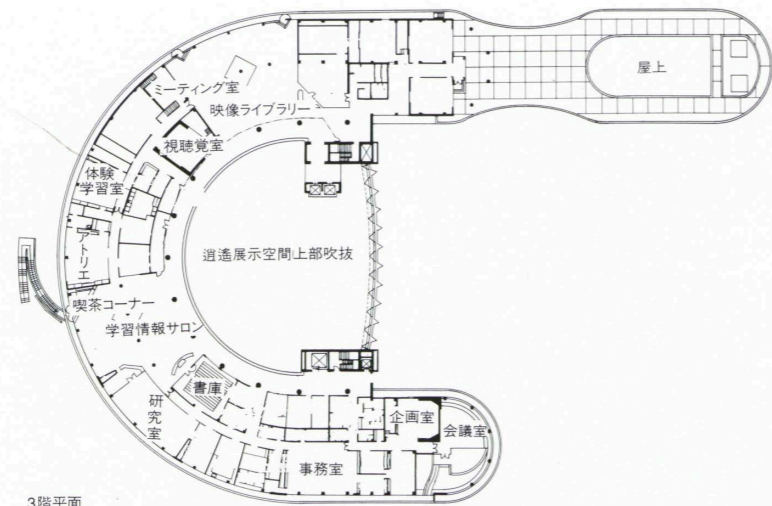
[展示室(歴史民俗・現代美術)] 床/鋼製床組、耐水合板⑦15mm下地、ブナフローリング⑦15mm 壁/軽鉄PB⑦12mm+12mm、一部FGボード⑦6+6mm、クロスEP 天井/軽鉄PB⑦12mm、岩綿吸音板⑦9mm

設備概要

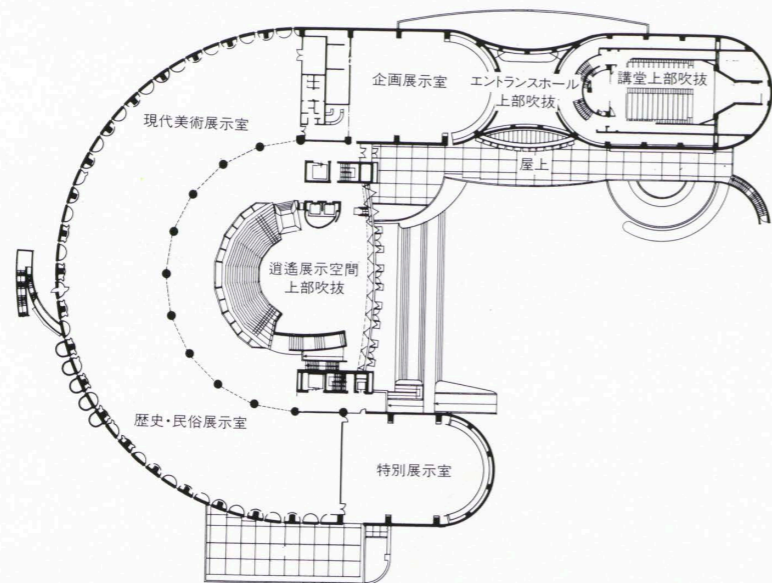
空調 方式/単一ダクト方式、ファンコイルユニット、一部空冷式パッケージ空調機 熱源/空冷ヒートポンプチラー340RT

衛生 給水/高置タンク重力式 給湯/中央式ヒートポンプ給湯機、一部電気温水機 排水/建物内:分流方式 屋外:合流式

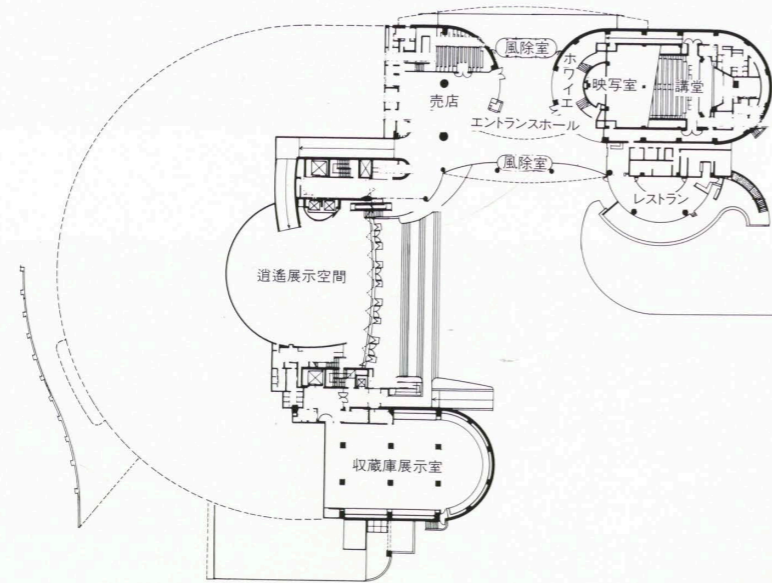
防災 消火/ハロン、スプリンクラー、屋内消火栓 排煙/機械排煙、自然排煙 その他/自火報、非常放送



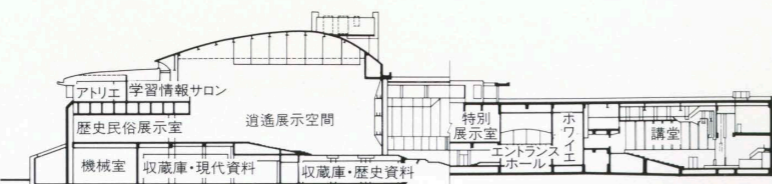
3階平面



2階平面



1階平面 縮尺1/1,500



断面 縮尺1/1,500

選評 REVIEW

相田武文 TAKEFUMI AIDA
 櫻井 清 KIYOSHI SAKURAI
 中島 隆 TAKASHI NAKAJIMA

「川崎市市民ミュージアム」は国際科学文化都市としての川崎市にふさわしいシンボルとして建設されたものである。

その意図するところは、新しいタイプの市民ミュージアムを創造することであり、市民に開かれた文化交流のひろばとしての役割を果たすことである。

このミュージアムは緑地との有機的な利用を考慮し、いわゆる「森の中に建つミュージアム」という意図を持っている。周辺環境との調和を図るために、建築の形態を円形にし、景観との調和を図るなど配置図の段階における考慮が注意深く行われている。

現代の建築にふさわしく省エネルギーに対する考慮、屋根材のチタンなどの使用、メンテナンスフリーなどの配慮がされ、造形上の巧みさと合わせて質の高い空間をつくりあげている。

特筆すべきことは「逍遙展示空間」と呼ばれるスペースの企画と空間のつくり方にある。

この空間は多様な機能を持ったものを総合し、シンボル化したものとなると同時に、美術展示室、歴史・民俗展示室、映像ライブラリーなどを視覚的にも明解に結びつけている。

逍遙展示空間には現代的なオブジェが置かれ、現代的な建築デザインとほどこい調和を保っているように思える。このスペースはときには音楽やパフォーマンスの場として供され、広く市民に開放された場となっている。この空間のガラス面には独特のカーテンが施され、採光の調整によって微妙な光の綾なす空間をつくりあげると同時に、夜はファンタジックな効果を演出する。

円形に開かれたこの空間は開放性と同時に求心性が感じられ、市民にとってのコミュニケーションの場として期待できるだろう。

このミュージアムは企画から設計にいたる構想段階で、密度の高い討議が行われ、市民に開かれた施設としてのあるべき姿を問うたことが、施設の内容を高める結果に結びついたものと思われる。建築デザインの質の高さと同時に、収蔵庫などの裏に隠れた部分にも十分な配慮がなされており、企画段階での構想が深く浸透しているように思える。

施工上は特に屋根のチタン、外壁の300角大型タイル貼りなど、技術的に注意を払わなければならない部分があったが、高度の技術力をもって設計に忠実に従っていたように思う。

Symbolizing the city of Kawasaki as a center of international scientific and cultural activities, the Kawasaki City Museum is a new kind of civic museum open to the local citizenry for various kinds of cultural exchange. It is intended to be used in organic connection with surrounding greenery as if it were a museum in a forest. Selection of a circular building form is an example of the kind of careful thought given to harmony with the surroundings from the placement stage of the project. Spatial quality is improved by both skillful treatment of plastic forms and, technically, consideration of energy conservation, insurance of easy maintenance, and the use of titanium in the roofing.

The so-called Strolling Exhibition Room deserves special notice. A symbolic zone filling diverse functions, the room establishes visual connections among the art, history, and ethnic exhibition spaces and the film library. The avant-garde art objects displayed in the Strolling Exhibition Room agree well with the contemporary nature of the architectural design. The space is open to the public for concerts and various performances. Its glass surfaces are fitted with special curtains that regulate natural lighting to produce subtle patterns during the daytime and create a festive mood at night. Because it is circular, open, and highly centripetal, the space is excellent for all kinds of communications.

Intense debate was conducted from the concept stage to investigate the optimum nature of the open facility in terms of service to the local people. Museum content has been greatly enriched because of these efforts. Ideas worked out at the planning stage permeate not only the excellent architectural design, but also the careful consideration of such backstage functions as storage space. Sophisticated technical skills supported the design. Such elements as the titanium roofing and large (300×300mm) exterior tiles deserve special mention.